

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	社会学研究科 社会学専攻	2026年度
専門科目	修士課程《一般・外国人・社会人》	秋季

[I]

《解答又は解答例》

(A) 欧米をはじめとする先進各国において、排外主義を掲げる新興政党が台頭したり、世論の二極化が進んでいるとされる。その直接的な原因については、SNS がもたらすエコーチェンバー効果によって集団分極化やフィルターバブルと呼ばれる現象が生じたせいであると説明されることが多い。

ただし、排外主義を唱える勢力の多くは権威主義的ポピュリズムの形をとっており、1930年代に台頭したファシズムとの類縁性も指摘できる。例えばエーリッヒ・フロムが『自由からの逃走』において論じた、没落の危機におびえる下層中間階級が孤独や不安、そして無力感を抱き、権威主義や差別に同調してゆくという全体主義の説明は、現代社会の分断を説明する上で一定の有効性をもつだろう。

排除については、デュルケムが「人格崇拜」と呼び、あるいはパーソンズやベラーが「市民宗教」と呼んだ、人権の尊重を核とする道徳的な個人主義が衰退したためであると理解することもできる。広域的な近代国家を統合する原理として期待されたこれらの理念は、少数者に対するヘイトが横行する社会において力を失っていると言えよう。

また、いくつかの学説は、地域や中間集団において社会関係の凝集性が保たれていた時代が本格的に終焉したことを論じている。ロバート・パットナムは、地域的な結社への自発的参加を促進する「社会関係資本」が戦後のアメリカ社会で衰退してきたことを跡付けた。アンソニー・ギデンズはグローバル化の進展とともに「時間と空間の分離」や伝統からの「脱埋め込み」が生じたことを指摘し、ウルリッヒ・ベックは個人を保護する中間集団が衰退するとともにリスクの「個人化」が進んでいるとした。インターネット空間での繋がりに頼り、過度に同調する人びとが生まれる背景には、こうしたローカルな繋がりの衰退が関係していることも考えられる。

(B) 批判理論の代表的な著作であるアドルノとホルクハイマーの『啓蒙の弁証法』においてマスメディアは啓蒙思想の理想を実現するのではなく、むしろ道具的理性によって思考の画一性と社会の支配構造を強めると批判した。アメリカにおいて、映画、音楽、出版などの文化産業を通じて提供するコンテンツ等は、画一化された既製品であり、個人の創造性を阻害し、大衆の思考を均質化する。一見表現の自由の下で自由を尊重し実現しているかのようだが、むしろ実態は個人の自由や多様性を抑圧しているとしている。啓蒙は、現代の野蛮に転化していると激烈な表現で批判している。

『啓蒙の弁証法』で描かれたマスメディアの支配力は、新聞や雑誌、ポスターなど印刷メディアとラジオの時代のものである。テレビは、マスメディアとしては普及していない。その時代ですらアドルノとホルクハイマーによるとマスメディアは、強力で魅惑的だった。現代においてシニア年世代では、アドルノとホルクハイマー同様マスメディアのパワーは、暴力的なイメージの侵略のようにとらえられており、洗脳に近い性質のものであろう。だが、

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	社会学研究科 社会学専攻	2026年度
専門科目	修士課程《一般・外国人・社会人》	秋季

現代日本においてマスメディアは、アドルノとホルクハイマーが描いたような魔術的で強力な力を有しているだろうか。また、ネットや SNS は、この画一性の支配構造を打破するものとして機能しているのだろうか。

批判理論の原点に立ち返って本質を考察すると、インターネットや SNS は、かつては新聞が大衆の声として権力に対して立ち向かうという楽観的な「啓蒙」のメディアであったのと同様に、より個人を自由にし、多様性を生み出すと論じられたこともあった。

しかし、SNS のプラットフォームたちが、顧客から収集したビッグデータの解析をもとに生み出したアルゴリズムから同一の価値観を持った集団をより強固なものとし、エコーチェンバー、フィルターバブルを発生させることによって集団的な均質性を企業戦略として高めようとしている。また、再生数稼ぎや政治的な意図によりフェイクニュース、ディープフェイクなどの情報操作が盛んにおこなわれている。

ポスト・トゥルース時代ともいわれているメディア環境の中で SNS から提供される様々なコンテンツによってブーアスティンが唱えた擬似イベントが、氾濫している。また、ローマ時代のパンとサーカスのように、現代の SNS によってデジタル化したサーカスが満ち溢れているスペクトル社会の度合いが増しているといえよう。

このように批判理論がかつて指摘したメディア状況はより複雑化し、より強く画一的で分断された大衆にたいする支配構造を創造するものとなっているともみなせる。結果として、アドルノとホルクハイマーが論じた 20 世紀のマスメディアによる「啓蒙」の負の側面を、より高度にかつ複雑で悪質な形で再生産してしまったともいえよう。

《出題の意図》

- (A) 社会学はくり返し、ばらばらの個人から構成される社会がいかなる原理によって「統合」されるのか、また「統合」されるべきかという問いにとり組んできた。この問いは、個人と社会をいかに定義し、現代社会とその成り立ちをいかに説明するかという根本問題とも関わっている。

社会の分断やマイノリティの排除が顕在化する現代社会について、社会学の学説をどのように活かしながら説明できるかを問うた問題である。

- (B) 『啓蒙の弁証法』を代表とする批判理論から現代のマスメディアの力はどうかとらえられるのか、また、インターネット、SNS は自由と多様性を促進したのかを問う。

上記の問いによって現代のメディア状況について表面的な見方ではなく、批判的な深い考察ができているのか。問題意識をもってメディア論の理論的な歴史的な文脈から本質的なメディア認識を得ようとする意欲と知識を持っているのかを問いたい。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	社会学研究科 社会学専攻 修士課程《一般・外国人・社会人》	2026年度 秋季
専門科目		

[II]

《解答又は解答例》

(1) 機械的連帯／有機的連帯

エミール・デュルケムが『社会分業論』などで用いた概念。機械的連帯は同質的な伝統的社会において、その成員同士が類似した価値観や生活様式を共有することによって成り立つ。有機的連帯は分業が進展した近代社会に特徴的で、専門分化した役割を相互に補完しあい相互依存することによって成り立つ。

(2) 儀礼的無関心

アーヴィング・ゴフマンが『集まりの構造』などで用いた概念。他者と同じ空間をともにする際、相手の存在を認めながらも過度に干渉せず、視線をそらすなどして距離を保つ社会的作法のこと。相手に対して自分は特別な関心もなく、無害な存在であることを暗黙裡に伝えることによって、匿名性の高い場における他者との円滑な共存を可能にする。

(3) 強い紐帯／弱い紐帯

マーク・グラノヴェッターが唱えた「弱い紐帯の強み」説で用いられる概念。強い紐帯とは、家族や親しい友人など感情的な結び付きや接触頻度の高い関係を指し、強固な信頼や支援を可能とする。その一方、弱い紐帯は知り合い程度の緩やかな関係を指すが、異なる集団をつなぐ架け橋として新しい情報や機会をもたらしてくれる。

(4) ポストコロニアリズム

旧植民地国の社会において、宗主国からの独立後もその文化や知識体系にかつての支配の影響が深く刻み込まれていることを批判的に検討する学問的立場。サイードの『オリエンタリズム』やスピヴァクの『サバルタンは語るができるか』などを嚆矢とし、権力関係の残存や表象の偏りを問い直し、周縁化された声を回復しようとしている。

(5) 疑似相関

二つの変数間に統計的な相関が観察されても、実際には別の第三の要因が両者に影響することによって生じる見かけ上の相関のこと。因果関係について誤って推論する危険があるため、背後要因の検討や統制が社会調査においては不可欠となる。

(6) 参与観察法

研究者が調査対象となる集団や空間に実際に身を置き、その成員として活動に参加しながら観察する質的調査法のこと。内部者の視点で日常実践の文脈を深く観察できる反面、調査者が対象と情緒的に一体化することによって主観的なバイアスが入り込む危険性に配慮する必要がある。

法政大学大学院
入学試験 解答又は解答例、出題の意図

試験科目	社会学研究科 社会学専攻 修士課程《一般・外国人・社会人》	2026年度 秋季
専門科目		

(7) ビッグデータ

人間では全体を把握することが困難な巨大なデータ群で、数量だけでなく言語、画像、動画、音声など多様なデータを総称している。「データ量 (Volume)」「多様性 (Variety)」「処理速度 (Velocity)」の「3V」を備え、日々驚異的なスピードで拡大している。

(8) ディープフェイク

AIを用いて、本物と見分けがつかないほどのリアルな映像や音声を生成する合成する技術のことをいう。AIの「ディープラーニング (深層学習)」と「フェイク (偽物)」を組み合わせた造語である。

(9) 疑似イベント

ブーアスティンが唱えた「疑似イベント」とは、マスメディアによって人為的に演出・計画された出来事のことであり、マスメディアを通じ発信されることを前提に作られた「事実」のことである。

(10) スペクタクル社会

ギー・ドゥボールによって唱えられた。マスメディアによって商品をはじめあらゆる消費物がスペクタクル(見世物)化し、人々は消費者として受動的にそれらを受け入れ、非現実の世界の中に閉じ込められた社会をいう。

《出題の意図》

社会学 (社会調査をふくむ) およびメディア学の基礎概念についての知識の有無と理解を問う。社会学やメディア学の辞典や教科書、あるいは近年の論説で取り上げられることの多い概念から出題している。(1)～(4)は社会学、(5)～(6)は社会調査、(7)～(10)はメディア学にかんする概念。